2022年（令和４年度）

小畠病院年報

Kobatake Hospital Annual Report

病　院　長　挨拶

この度2022年度の年報を上梓する運びとなりました。私が2020年４月に院長職を引き継ぎ、３年が経過しました。院長就任の年に新型コロナウイルスの大流行が始まり、それから世界の情勢が大きく変化しました。往来の自粛や病院・施設での面会中止など、家族や友人と接する時間と機会が失われ、我々に残した爪痕は大きいものであったと痛感します。そのような状況が、2023年５月８日にそれまでの第２類から第５類感染症へ扱いが変わったことにより、新たな「ウィズコロナ」の時代となりました。海外ではすでにマスク姿の人が消え、コロナ前と同じような街の様子が映し出されていましたが、ようやく日本でも従来の、人々が自由に行き交う生活を取り戻しつつあります。

2022年度、当院では電子カルテの更新を行いました。2015年度に導入し、７年経過して初めての更新でした。初期導入時ほど大きな混乱はなく、更新を終えることができました。医療安全の面から考えた新しい仕組みを含め、いくつか新機能を取り入れることもできました。

運営面では2021年４月より脳神経内科の常勤医師が着任しており、神経内科診療についてはこの２年で以前より充実してきました。また泌尿器科についても前立腺肥大に対する接触式レーザー前立腺蒸散術（CVP）を広島県内で３番目に導入いたしました。これにより、一時中断の難しい抗血小板薬や抗凝固薬の中止をせずに前立腺肥大を治療することが可能となり、比較的高齢の患者さんにも安全で負担の少ない治療を行うことができるようになりました。また専門医療だけでなく、引き続き在宅と高次医療機関の橋渡しとなるようなハブ病院として地域医療に貢献していく所存です。診断に苦慮するケース、入院を必要とするケース、超急性期治療後のリハビリテーションが必要なケースなど、積極的に受け入れていきたいと考えております。

2023年で私が駅家町に戻って10年が経過しました。社会情勢や医療を取り巻く環境が著しく変化する中で、あっという間の10年でした。この地で当院が診療を継続できるのも、近隣の医療機関や地域の皆様のご理解とご支援があったからこそと、厚く御礼申し上げます。次の10年も引き続き地域にとってなくてはならない病院であり続けるため、また職員が当院で誇りを持って働ける病院にするために、引き続き「地域に望まれる理想の医療を目指して」職員一同取り組んでまいります。今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

病院長　小島康平

病 院 理 念

地域に望まれる理想の医療を目指して

基 本 方 針

1．私たちは患者さんの立場に立ち、安心で
満足できる医療を提供します。

1．私たちは患者さんに心から信頼される
医療人を育成します。

1．私たちは地域に密着した病院としての
機能向上を図ります。

職員心得10句

1．挨拶はすべての始まり社会人

2．職場では笑顔と返事忘れない

3．今日もまた明るく清くヒトとモノ

4．何事も基本にもどる手引きかな

5．旧弊は振り払うべし若者よ

6．いつまでも試行錯誤を恐れない

7．みんなして同じエラーを二度しない

8．今日から必要なことをすぐやろう

9．明日からはやれない訳（わけ）を探さない

10. 枯れるまでいつも心は向上心

病院概要

（2023年４月１日現在）

名称	医療法人社団玄同会　小畠病院
開設	昭和61年3月（創立；昭和40年2月）
所在地	〒720－1142　広島県福山市駅家町大字上山守203番地
	電話：084-976-1351 FAX：084-976-6309
理事長	小畠敬太郎
病院長	小畠廉平
副院長	大口泰助
看護部長	佐野京子
事務局長	矢吹秀介
標榜科	内科・外科・泌尿器科・眼科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科・糖尿病内科・リハビリテーション科
病床数	一般病床（地域包括ケア病棟入院料1）：52床
	療養病床（療養病棟入院基本料1）：59床
職員数	237人（2022年4月現在）
建築面積	1,532.34㎡
延床面積	5,371.35㎡
保険医療指定機関 認定施設	各種社会保険療養取扱機関
	国民健康保険療養取扱機関
	老人医療取扱医療機関
	労働災害保険取扱機関
	生活保護指定医療機関
	身体障害者福祉法医療機関
	特定疾患治療取扱医療機関
	原子爆弾被爆者一般医療機関
	結核予防法指定医療機関
	介護保険療養取扱機関
	人間ドック実施医療機関
	指定自立支援医療機関（精神通院医療）
	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院 【認定第JC637-3号、機能種別版評価項目3rd:ver.1.1)】
	厚生労働省臨床研修指定病院（施設番号031937）
	日本泌尿器科学会専門医教育施設認定病院（施設登録番号900089）
	日本神経学会専門医教育関連施設（認定番号20230816号）
	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院
	広島県地域リハビリテーション協力病院

併設事業所	居宅介護支援事業所こばたけ
	訪問看護ステーションこばたけ
	デイサービスむべやま
	ケアモール芦花 （サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）
	ヘルパーステーション芦花
	短期入所療養介護事業所
	短時間通所リハビリテーション
付属施設	小畠病院託児所

病院沿革

1945年	旧芦品郡宜山村大橋（現福山市駅家町大橋98番地）の旧高田医院を継承し、 小畠医院を開設　　病院長　小畠三喜男
1950年	一次休止
1957年 3 月	小畠内科再開
1965年 2 月	現在地に小畠病院設立　内科・外科（27床）　　病院長　小畠三喜男
1974年 3 月	34床に増設
1974年 4 月	厚生連より運営を委譲され服部診療所開設
1980年11月	泌尿器科標榜　透析治療開始
1982年12月	本館完成　111床に増設
1983年 9 月	神経内科標榜
1986年 3 月	医療法人社団玄同会設立　　理事長　小畠三喜男
1986年 9 月	小畠敬太郎　理事長・病院長に就任
1989年 2 月	胃腸科（現、消化器内科）標榜
1989年 4 月	体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）導入
1989年12月	透析治療終了
1992年 6 月	眼科標榜
1992年 9 月	基準看護承認
	基本看護1（一般病棟52床）　特例看護1類（老人特例病棟47床）
1992年10月	体外衝撃波結石破砕装置（ESWL）施設承認
1993年 9 月	日本泌尿器科学会専門医研修指定病院に認定される
1993年12月	中館完成
1994年11月	託児所完成
1996年 4 月	第1回病院祭開催
1997年 1 月	服部診療所新改築
	療養病棟入院基本料1承認（療養病棟47床） （老人病棟を療養病棟に名称変更）
1997年 4 月	第2回病院祭開催
1997年 7 月	ホームページ開設
2000年 3 月	東館完成
2000年 4 月	一般病棟58床、療養型56床、合計114床に増床
2000年 7 月	療養型介護療養施設サービス費（Ⅰ）承認
	療養病棟56床の内9床を介護病床とする
2001年 4 月	第3回病院祭開催
	院外処方箋開始
2002年 9 月	小畠病院訪問リハビリテーション事業所開設
2003年 1 月	特殊疾患療養病棟入院料1承認（特殊疾患療養病棟30床）
	療養病棟27床（療養型17床、介護型10床）に変更

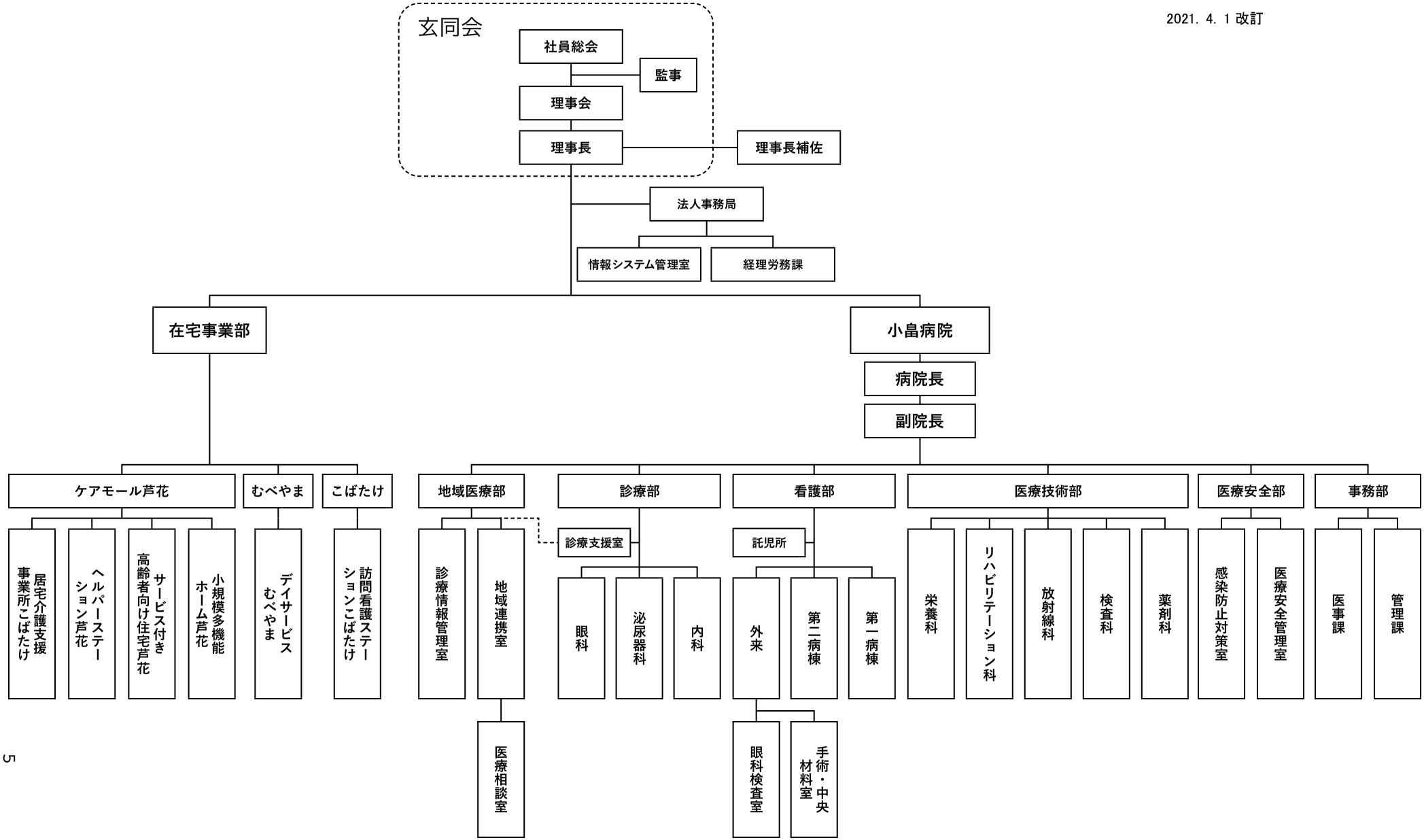
2003年 3 月	小畠病院居宅介護支援事業所開設
2003年 7 月	広報誌「葦」創刊
2003年10月	厚生労働省臨床研修病院（協力型）に指定される
2004年 4 月	広島県難病医療ネットワーク事業協力病院に指定される
2004年 6 月	本館増築工事完成
	小畠病院デイサービスセンターむべやま完成
2005年 4 月	広島県地域リハビリテーション協力病院に指定される
2005年 8 月	財団法人日本医療機能評価機構認定病院に指定される
2006年 5 月	第4回病院祭開催
2006年 8 月	救急医療機関の認定を受ける
2006年 9 月	一般病棟52床（内、亜急性期病床6床）、療養病棟60床（内、介護療養病床7床）の計112床に病床変更
2006年10月	服部診療所閉院
2007年12月	オーダリングシステムを中心とした医療情報システムの導入
2008年 4 月	地域連携室開設
2008年 7 月	PACS（画像情報システム・フィルムレス化）導入
2010年 8 月	財団法人日本医療機能評価機構 認定病院に更新認定される
2010年10月	介護療養病床を廃止し、一般病棟52床（内　亜急性期病床6床）、療養病棟60床の計112床に病床変更
2013年 3 月	ケアモール芦花（サービス付き高齢者向け住宅芦花、小規模多機能ホーム芦花）開所
2013年10月	小畠病院訪問看護ステーション開設
2013年11月	亜急性期病床を廃止し、一般病棟52床、療養病棟60床の計112床に病床変更
2014年 8 月	循環器内科標榜
2015年 2 月	電子カルテシステムの導入
2015年 8 月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
2016年 4 月	福山市一般二次救急病院群輪番制に参加
2016年11月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：60床（療養病棟）の計112床に病床変更
2017年 3 月	ヘルパーステーション芦花開設（ケアモール芦花大幅増築）
2017年 4 月	一般病床：52床（地域包括ケア病棟）、療養病床：59床（療養病棟）の計111床に病床変更
2017年10月	第5回病院祭開催
2018年 1 月	通所リハビリテーション（デイケア）開設
2018年 3 月	院内託児所新築移転
2018年 8 月	北館完成
2018年10月	訪問看護ステーションこばたけ　神辺サテライトステーション開設（2020年3月閉設）
2019年10月	デイサービスむべやま増改築
2020年 4 月	小畠廉平　病院長に就任
2020年 8 月	公益財団法人日本医療機能評価機構認定病院に更新・認定される
2022年 7 月	接触式レーザー前立腺蒸散術装置（CVP）導入
2022年 9 月	電子カルテシステムの更新（NEC社製）
2023年 4 月	糖尿病内科標榜

医療法人社団玄同会 組織図

2003.11.17 作成

---- 中略 ----

2021. 4. 1 改訂



内　科

内科部長　**原　睦展**

■概要

内科は初期診療の段階で適切な診察と検査で病因を究明し、早期診断を行い、最善の治療へ結び付けることを常に考え診療をしています。内科の診療対象となる疾患は数多くありますが、当院では一般内科の他、理事長・石川医師の専門とする脳神経内科、院長による循環器内科・プライマリー医療、原医師による消化器内科に加え、非常勤医師による糖尿病内科および呼吸器内科の専門治療を行っています。

〈スタッフ〉
常勤医師……4名
非常勤医師…10名

■活動実績

2022年度の内科全体の外来患者数は延べ25,696人で、対前年度比9.4%増でした。（表1）入院では新規入院患者数が682名、延べ入院患者数は30,170人となっています。（表2）

一般病棟の入院診療は、院長・内科医師と毎日交替で回診をし、それに加えて理事長の総回診もあります。また、日々の患者さんの変化に細かく対応するため、コメディカルスタッフも含めたカンファレンスを毎朝行い、診断・治療を進めています。

入院症例は大腸ポリープが最も多く、続いて肺炎、心不全、悪性新生物、消化器系疾患（大腸ポリープを除く）、パーキンソン病となっています。糖尿病、呼吸器、循環器の各科専門医の在院日には専門医の対診も合わせて行っており、睡眠時無呼吸は脳神経内科と呼吸器内科で診療しています。

2016年度より参加している福山市一般二次救急病院輪番制では、2022年度は当番回数44回、受け入れ患者数は292名でした。

在宅医療については、機能強化型在宅療養支援病院として48件の往診、685件の訪問診療を行い、348件の医学総合管理料を算定しました。（表3）

■診療実績・統計

表1：外来延べ患者数　（単位：人）

	2020年度	2021年度	2022年度
初　診	1,922	2,263	3,659
再　診	19,707	21,218	22,037
合　計	21,629	23,481	25,696

表2：入院患者数　（単位：人）

	2020年度	2021年度	2022年度
新規入院患者数	652	726	682
延べ入院患者数	29,904	32,108	30,170

表3：在宅関連件数等　（単位：件）

	2020年度	2021年度	2022年度
延べ往診件数	79	46	48
延べ訪問診療件数	598	647	685
在医総管・施医総管算定件数	301	323	348
在宅看取り件数	20	11	14

脳神経内科

脳神経内科では2021年4月より常勤が1名増員となり、計3名（常勤2名、非常勤1名）の神経内科領域を専門とする医師が診療を行っています。

当科で診療している主な疾患は、頭痛や認知症などの有病率の高い疾患から、パーキンソン病およびその類縁疾患、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患を主とする神経難病です。神経変性疾患の中でも遺伝性脊髄小脳変性症やハンチントン病などの希少な遺伝性疾患の患者さんも少なくありません。当院の脳神経内科診療で心掛けていることは、普通に内科外来を受診された患者さんの、ありふれた日常診療において聴取した病歴や症状、記録した身体所見、神経学的所見の中から、病気のサインを見逃さないということです。そして外科的治療の必要なものを速やかに除外します。また鑑別に必要な画像検査（MRI、DAT スキャンなど）は連携医療機関へ依頼しています。パーキンソン病患者さんで、薬物療法以外にデバイスを用いた治療は大学病院などしかるべき病院へ紹介しています。

当地域では神経難病を患いながらも在宅療養を余儀なくされる方々も多く、患者さんやご家族のQOL 維持・向上を目標に診療しています。当科ではその一環として在宅で神経難病患者さんの介護を担われている患者さんのご家族を支援できるように、レスパイト入院を積極的に受け入れています。

当科には頭痛専門医が在籍し、頭痛診療にも力を入れています。2021年度より3種類の CGRP 関連抗体片頭痛治療薬が、新規作用機序をもつ片頭痛発作を抑制する薬剤として使用可能となりました。当院では発売当初よりこれらの新規薬剤を導入し、既存の片頭痛発作予防薬と比較しても優れた効果を認める薬剤として多くの患者さんに使用していただいております。

脳神経内科は高齢化とともに必要とされることが多い科であり、近隣のクリニックや病院の先生方と連携関係を密にしながら、当地域の患者さんに質の高い医療サービスを提供していきたいと考えています。

表1：外来の主な神経疾患　（単位：人）

		2020年度	2021年度	2022年度
パーキンソン病及び パーキンソン関連（※1）	初診	27	24	28
	再診	1,212	1,298	1,202
多系統萎縮症	初診	0	0	1
	再診	32	35	26
筋萎縮性側索硬化症	初診	1	1	2
	再診	10	17	16
脊髄小脳変性症	初診	4	3	1
	再診	300	318	269
ハンチントン病等その他	初診	0	1	2
	再診	79	70	69

※1　パーキンソン病・進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症を含む

表2：頭痛患者の内訳　（単位：人）

			2020年度	2021年度	2022年度
片頭痛		初診	27	39	59
		再診	587	722	684
緊張型頭痛		初診	31	60	73
		再診	1,135	1,287	1,235
群発頭痛		初診	1	1	3
		再診	0	0	5
MOH（※1）	片頭痛	初診	2	3	11
		再診	157	156	159
	緊張型頭痛	初診	0	0	1
		再診	0	0	7

※1　薬物使用過多による頭痛

消化器内科

消化器内科では胸やけ、腹痛、嘔吐、便通異常などの主に腹部症状を訴える患者さんを対象として各種検査・治療を行っています。

検査の結果、診断された食道癌、胃癌、肝癌、急性胆のう炎、膵癌、大腸癌、虫垂炎などの疾患は高次病院へ紹介し治療に結び付けています。近年増加傾向にある逆流性食道炎に対する維持療法や萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍、胃癌の原因であるヘリコバクター・ピロリ感染に対して積極的に除菌療法を行っています。また、高次病院からの癌終末期患者さんの紹介にも対応し、在宅や入院での緩和医療を行っています。

表1：消化器内科各検査・各処置件数　（単位：件）

	2020年度	2021年度	2022年度
内視鏡検査			
上部（食道・胃・十二指腸）	807	919	875
下部	376	404	379
内視鏡処置			
内視鏡的大腸ポリープ切除術	94	123	103
胃瘻造設術	33	42	33
胃瘻交換	148	154	175
腹部超音波検査	502	439	488

循環器内科

循環器内科は常勤医が診療を行っているのに加え、週一回水曜および第1，3土曜午前に岡山大学循環器内科学教室からの非常勤医師派遣を受けながら診療を行っております。当院は高血圧、心不全の高齢患者さんが多く、外来ではそういった患者さんの診察を行い、急性心不全や慢性心不全の急性増悪を認めた場合は入院での加療を行っております。急性冠症候群や明らかな重症弁膜症から来る心不全など、緊急での心臓カテーテル検査や手術が必要な場合は、患者さん本人やご家族とも相談の上、主に福山市民病院、福山循環器病院などの専門機関に紹介しております。緊急性は無いものの、後に心臓核医学検査、心臓カテーテル検査や手術といった侵襲的治療が必要と思われた患者さんについても専門機関に紹介しております。逆に専門機関からの継続加療目的にてご紹介いただいた患者さんについては、当院でお受けしています。

2022年度は心不全患者さんの数が前年度と比較して減少した以外は、大きな変化はありませんでした。当院の心不全診療について、近隣の医療機関の先生方や周辺住民の方々に十分知られていないのではないかと考えております。心不全チームの活動が軌道に乗ってきたところでもあり、今後学会活動についても積極的に行い、また診療面においても皆様の期待に応えられるようにさらなる努力をしていく所存です。

引き続き当院でできる限りの対応や治療を行って行きたいと考えております。

〈スタッフ〉

常勤医師……1名

非常勤医師…2名

■診療実績・統計

表1：外来の主な循環器疾患　（単位：人）

		2020年度	2021年度	2022年度
心不全	初診	79	76	57
	再診	2,973	2,815	2,550
不整脈 AF、PSVT含む	初診	19	16	18
	再診	1,270	1,270	1,049
弁膜症 AS、MR含む	初診	6	4	3
	再診	226	270	184
高血圧症	初診	154	219	251
	再診	12,249	13,994	13,443
先天疾患 ASD、VSD含む	初診	0	3	0
	再診	4	10	0

泌尿器科

泌尿器科部長　**大口　泰助**

■概要

泌尿器科は泌尿器科専門医・指導医である常勤医師2名と非常勤医師とで診療にあたっています。また、日本泌尿器科学会教育施設であり、研修医の受け入れも随時行なっています。2022年度の外来患者数は延べ16,916人、新規入院患者数は691人でした。入院症例の内訳では結石が267例で最も多く、全体の38.6% を占めています。2022年度は新たに、前立腺肥大症に対して接触式レーザー前立腺蒸散術（CVP）を導入しました。これからも地域における結石・前立腺の治療と検査に、より積極的に取り組んでいきたいと考えています。

〈スタッフ〉

常勤医師…2名、非常勤医師…2名

■診療実績・統計

表1：外来患者数　（単位：人）

	2020年度	2021年度	2022年度
初　診	2,332	2,634	2,784
再　診	13,067	13,595	14,132
合　計	15,399	16,229	16,916

表2：入院患者数　（単位：人）

		2020年度	2021年度	2022年度
新規入院患者数	男性	447	457	524
	女性	149	146	167
	合計	596	603	691
平均年齢		69.43歳	70.22歳	71.16歳
平均在院日数		9.01日	8.47日	9.78日

表3：入院総数の主な内訳　（単位：人）

		2020年度	2021年度	2022年度
悪性腫瘍	前立腺癌	48	85	84
	膀胱癌	101	71	78
	腎盂・尿管癌	8	14	9
結　石	腎・尿管	211	213	227
	膀胱・尿道	24	33	40
炎　症	腎盂腎炎	53	53	65
	前立腺炎	9	6	10
	精巣上体炎	3	2	3
	その他	6	5	8
良性腫瘍	前立腺肥大症	73	56	94
	その他	4	1	4
その他		56	64	69
合　計		596	603	691

表4：手術総数の主な内訳

（単位：件）

		2020年度	2021年度	2022年度
結石手術	体外衝撃波による結石破砕術（ESWL）	187	218	219
	経尿道的尿路結石摘出術（TUL）	108	133	137
	経皮的尿路結石摘出術（PNL）	5	4	4
	経尿道的膀胱尿道結石摘出術	29	35	45
前立腺肥大症	接触式レーザー前立腺蒸散術（CVP）	0	0	34
	経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	21	9	8
悪性腫瘍手術	後腹膜下腎尿管全摘出術	1	1	0
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）	67	52	70
	膀胱生検	6	7	3
前立腺生検		86	102	127
その他		47	68	71
合　　計		557	629	718

眼　科

眼科部長　**瀧川　泰**

■概要

当眼科は1992年6月の開設以来、30年目を迎えました。白内障や緑内障、加齢黄斑変性等の眼底疾患の診断・治療、コンタクトレンズや眼鏡の処方などを行っております。糖尿病や高血圧などの内科的疾患から目に症状がくることがあるため、内科と連携を図り、早期発見、診断・治療に努めております。

〈スタッフ〉

常勤医師……1名

■診療実績・統計

表1：外来延べ患者数　（単位：人）

	2020年度	2021年度	2022年度
初　診	2,206	2,115	2,276
再　診	5,504	5,577	5,612
合　計	7,710	7,692	7,888

表2：各検査件数　（単位：件）

	2020年度	2021年度	2022年度
矯正視力	6,645	6,677	6,838
調節	89	87	79
負荷後屈折	29	21	21
眼圧	5,492	5,465	5,619
静的視野（オクトパス）	359	341	364
動的視野（GP）	7	6	9
精密眼底検査（片側）	10,460	10,374	10,872
眼底カメラ撮影	70	153	133
眼底三次元画像解析（OCT）	1,265	1,101	1,250
細隙灯顕微鏡検査	6,078	5,728	6,287
眼鏡処方	227	219	202
コンタクトレンズ処方	1,783	1,752	1,744